

病害虫防除の活動(3)

リレー随筆

福島県病害虫防除所の活動

(福島県病害虫防除所主査 久保田憲二^{くぼ たけんじ})

はじめに

福島県病害虫防除所は、1952年に16所に設置されたが、その後69年には7所に、80年には4所に機構改革され、86年には1本所3支所(本所は郡山市、支所は福島市、会津若松市、原町市に設置されていた)体制となった。その後、99年4月には、郡山市1ヶ所に統合され2年目をむかえた。

本県は、北海道、岩手県に次いで3番目に広い面積を有しているため、郡山市が県のほぼ真ん中に位置しているとはいえ、所要時間が片道3時間弱ほどの調査地点もある。しかし、ハイウェイをフルに活用しながら、県内を縦横無尽に走り回って植物防疫業務を行っている。

1 組織の現状

福島県病害虫防除所は、所長1名、次長1名、指導課長1名、予察課長1名、事務職1名、職員11名(合計16名)という体制であるが、この他に農業試験場に2名、果樹試験場に1名、発生予察事業に従事する職員が兼務で配置されている。11名の職員は、予察課6名、指導課5名に分かれているが、同時に普通作物担当4名、果樹担当3名、野菜・花き担当4名に分かれており、各専門ごとに発生予察事業に係わる調査を行っている。

2 発生予察事業の概要

(1) ファピィについて

巡回調査などに基づいて得られたデータから、発生予察情報や病害虫防除情報を作成し、発表を行っているが、誰でもファクスから取り出せるシステムとして、ファクスボックスを1997年から導入し、「ファピィ」(Fukushima, Agriculture, Plant Protection, Informationの頭文字から名付けた)という愛称で4年目をむかえている。過去3年におけるアクセス件数は、年間平均約2,000件前後となっている。

なお、防除所では独自にインターネットのホームページを作成していないが、ファピィに掲載した内容を、この7月末から開設されたうつくしま農林水産情

報ネットホームページ<<http://www.aff.pref.fukushima.jp/>>でも見るできるようになった。

(2) 普通作物

普通作物は、イネ、ムギ、ダイズ、ジャガイモと、牧草の5作物を対象としている。

イネではいもち病が最も重要な病害だが、現地での発生状況を巡回調査により把握するとともに、BLASTAMと福島県農業試験場で開発したBLASTLを用いて、発生時期と発生量の予察を行っている。このほかの病害では、紋枯病と稲こうじ病が予察上注意すべきものとしてあげられる。

イネの害虫では、イネミズゾウムシとイネドロオウムシが初期害虫として重要であり、積算温度に基づいた防除適期に関する情報を提供している。

福島県では、1996年から直播栽培に本格的に取り組み始めたが、その中でイネヒメハモグリバエとイチモンジセセリの被害が集中したため、特に注意をはらっている。イチモンジセセリに関しては、農業試験場と協力して、青色粘着トラップを設置し、発生時期と量の予察を行っている。

また、1999年に太平洋沿岸地帯で多発生して、「青立ち」症状まで引き起こしたクモヘリカメムシについても、7月以降の発生動向に特段の注意をはらっている。

この他にムギ類では赤かび病、牧草ではムギダニの発生動向に留意した調査を行っている。

(3) 果樹

果樹では、リンゴ、モモ、ナシの3樹種を主な調査対象としており、この他にオウトウ、ブドウ、カキも調査を行っている。

リンゴの病害では、斑点落葉病と黒星病が予察上重要なものであったが、薬剤防除が無ボルドー液体系に移行する中で、褐斑病が問題化してきている。モモでは灰星病とせん孔細菌病が、ナシでは黒星病と黒斑病が例年問題となっている。

福島県の中でも果樹地帯として知られている、福島市を中心とした県北地方では、リンゴとモモ、ナシにおいて、近年大面積で交信かく乱法による害虫防除に取り組んでいる。したがって、それまでフェロモントラップで把握していた害虫の発生推移がとらえられなくなり、その発生状況の把握に苦慮している。また、交信かく乱法により、殺虫剤の散布が軽減されるが、それにより従来あまり問題とならなかった害虫の発生が顕在化してきており、この対策にも追われている。薬剤防除体系は、必然的にほかの地域とは異なったも

The Activity Plant Protection Office in Fukushima. By
Kenji KUBOTA

(キーワード：発生予察事業，福島県)



図-1 福島県病害虫防除所の要覧

のになる。これらのことから、県北地方に対しては、ほかの地域とは異なった発生予察情報および防除情報を提供する必要が生じている。

(4) 野菜

野菜では、従来はキュウリとトマトだけを対象作物としていたが、1997年からはイチゴ、ピーマン、アスパラガス、サヤインゲン、ダイコン、キャベツ、ネギを追加し、今年からはこれらに加えてナスも対象とするようになった。

キュウリで問題となる病害は、うどんこ病、べと病、炭そ病、褐斑病が主であるが、ウイルスによる急性萎凋症の発生が大きな問題となる時もある。害虫では、ハダニ類が最も防除に苦労している。野菜においては防除体系がしっかりと確立されていない。そのため、まず夏秋キュウリでの防除体系を確立することを目指して、昨年から夏秋キュウリの主産地において、定植直後の5月下旬から10月中旬まで、週1回調査を実施し、病害虫の発生推移を把握するとともに、農家の薬剤防除実績を報告してもらっている。

トマトの病害では、葉かび病と灰色かび病が主として問題となるが、ここ数年はこれに加えてトマト黄化えそウイルスが時折大発生して問題となっている。害虫では、栽培後期にオンシツコナジラミとオオタバコガが問題となる。オオタバコガでは、フェロモントラ

ップを県内7ヶ所に設置している。多いところで誘殺数が年間10頭という少なさにもかかわらず、8月以降被害果率が5%を超える場合があり、予察に苦慮している。

イチゴの調査は、10月から翌年5月まで行っているが、冬期間は大雪によりしばしば調査圃場に行くことを断念することがある。しかし、厳寒期から春先にかけて、ハダニ類やオンシツコナジラミ、ミカンキイロアザミウマが急激に増殖することがあるので、雪道を細心の注意をはらいながら出かけている。オンシツコナジラミとミカンキイロアザミウマについては、いまのところ発生予察調査基準が設定されていないが、今後「発生予察調査基準の改善及び新規策定事業」の中で設定することとしている。

(5) 花き

花きの対象作物は、キクとリンドウの2つである。キクでは、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ、ナモグリバエ、オオタバコガが問題となっている。

リンドウでは、褐斑病と葉枯病の2病害と、ハダニ類、リンドウホソハマキ、アザミウマ類などの害虫に注意をはらって調査を行っている。

3 その他

(1) 病害虫の診断・同定

昨年の病害虫防除所の統合に際し、従来各試験場に

依存していた病害虫の診断・同定業務を、防除所の主要な業務の一つとしてとらえ、積極的に展開していくことになった。

昨年4～12月までの依頼件数は、201件であったが、野菜類と花き類がその大部分をしめていた。診断結果で多いのは、ウイルスと糸状菌による病害で、合わせて全体の6割程度であった。

(2) 薬剤感受性検定

病害虫の薬剤感受性検定は、防除所独自では困難であるが、各試験場と協力しながら、ハダニ類についてのみ実施している。果樹では、福島県果樹試験場の協力を得て、リンゴのリンゴハダニと、ナシのナミハダニについて行っている。野菜では、福島県農業試験場に協力して、イチゴのハダニ類について実施している。

おわりに

堅苦しい話に終始してしまったが、リレー随筆ということなので、最後につれづれなるままに言葉をなら

べてみたい。

福島県病害虫防除所の職員として、基本的に必要なのは、第一に体力であり、次いで視力が良いこと、第三に車の運転が苦にならないことであると私は考えている。40歳をむかえた私としては、目の近焦点距離が徐々に遠くなってきているが(簡単にいえば、老眼が進行している)、まだ数年は防除所でがんばりたいと思っている。

ところで福島県は東北地方の最南端に位置しているが、病害虫の発生を見ていると、どちらかというとなら関東に近いものがある。その意味では、病害虫は「白河の関」を越えてきてはいるが、仙台平野以北へはなかなか侵攻できないようである。したがって、福島県は病害虫の発生動向を見る場合、関東以南の状況に注意することとなる。このため、近くは関東東山、遠くは九州の病害虫研究会などに顔を出すことになる。もし福島県病害虫防除所の職員を見かけた際には、気軽に声をかけていただきたい。

発行図書

生物農薬ガイドブック 1999

社団法人日本植物防疫協会 編 A5判 口絵カラー 21頁 本文158頁

定価 2,100 円税込み (本体 2,000 円) 送料 310 円

生物農薬 (BT 剤を除く) についての概論と利用できる各剤の成分・特徴・適用内容・使用方法・使用上の注意点・使用例のデータについて詳しく解説。口絵では、剤ごとのパッケージ・内容物・対象病害虫雑草・処理場面などを掲載し、生物農薬の実用書として、技術指導書として最適です。

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。

社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03) 3944-1561 (代) FAX (03) 3944-2103 メール: order@jppa.or.jp

好評の植物保護ライブラリー

各冊とも B6判 定価 1,326 円税込み (本体 1,263 円)

イネいもち病を探る
作物の病気を防ぐくすりの話
虫たちと不思議な匂いの世界
日本ローカル昆虫記
ミクロの世界に魅せられて
茶の効用と虫の害
リンゴ害虫の今昔

口絵 2 頁 + 本文 174 頁 小野小三郎 著 (送料 240 円)

本文 121 頁 上杉 康彦 著 (送料 240 円)

本文 187 頁 玉木 佳男 著 (送料 240 円)

本文 220 頁 今村 和夫 著 (送料 310 円)

本文 221 頁 後藤 正夫 著 (送料 310 円)

本文 166 頁 刑部 勝 著 (送料 240 円)

本文 270 頁 奥 俊夫 著 (送料 310 円)

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。

社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03) 3944-1561 (代) FAX (03) 3944-2103 メール: order@jppa.or.jp